

網野善彦『増補無縁・公界・楽』を読む

網野善彦『増補無縁・公界・楽—日本中世の自由と平和』（平凡社ライブラリー）は日本中世社会に人類の原始の自由が「無縁」「公界」「楽」などという言葉で表現されて残存していることを主張した本である。発表当時から話題になり、歴史学のみならず広く人文学諸分野に影響を与えた。発表から30年を経た今日において、そこで著者が扱った問題は、依然として意味を持っている。このセミナーでは、この本の内容を理解することは勿論であるが、各章で扱われているテーマが、現在ではどのように評価され、説明されているかを検証し、著者の見解とどう異なっているのかを議論したいと思う

Index

I. 著者が扱っているテーマの概略

中世の日本社会に存在した「自由」な空間、「平和領域」を無縁所、公界所、自治都市などに求め、それらが人類社会が原始段階から有していた「無縁の原理」の名残りであるとする。

II. 著者について調べてみよう

まず網野善彦氏の略歴を調べてみよう。

III. 著作に対する評価

この著作に対しての評価（賛成・反対意見）を調べてみよう。

IV. キーワードで調べる

わからない単語がある時は、『網野善彦著作集』別巻の総索引を活用しよう。

V. 歴史用語や地名・人名・寺社名などを調べるために

VI. 各章の参考文献

各章に関係する文献・史料を読み、理解を深めよう。

VII. セミナーの目的

基礎セミナーA/稲葉伸道/I期・火

キーワード

縁切寺、無縁所、氏寺、公界所と公界者、自治都市、一揆と惣、十楽の津と楽市楽座、山林、市と宿、墓所と禅律僧・時衆、関渡津泊と勧進上人、倉庫、金融と聖、遍歴する「職人」、女性の無縁性、寺社と「不入」、「アジュール」としての家、「自由」な平民

1. 著者が扱っているテーマの概略

中世の日本社会に存在した「自由」な空間、「平和領域」を無縁所、公界所、自治都市などに求め、それらが人類社会が原始段階から有していた「無縁の原理」の名残りであるとする。

各章のテーマは以下の通り。

- ・縁切寺
- ・無縁所
- ・氏寺
- ・公界所と公界者
- ・自治都市
- ・一揆と惣
- ・十楽の津と楽市楽座
- ・山林、市と宿
- ・墓所と禅律僧・時衆
- ・関渡津泊と勸進上人
- ・倉庫、金融と聖、
- ・遍歴する「職人」
- ・女性の無縁性
- ・寺社と「不入」
- ・「アジール」としての家
- ・「自由」な平民

2.著者について調べてみよう

まず網野善彦氏の略歴を調べてみよう。

- ・岩波書店『網野善彦著作集』紹介**HP**

www.iwanami.co.jp/moreinfo/092641/

- ・『網野善彦著作集』別巻（岩波書店）

所在：中央図書館3F 210.08||A

3. 著作に対する評価

この著作に対する評価（賛成・反対意見）を調べてみよう。

- ・『網野善彦著作集』12巻（岩波書店）

所在：中央図書館3F 210.08||A||12

4. キーワードで調べる

わからない単語がある時は、『網野善彦著作集』別巻の総索引を活用しよう。

- ・『網野善彦著作集』別巻（岩波書店）

所在：中央図書館3F 210.08||A

5. 歴史用語や地名・人名・寺社名などを調べるために

- ・『国史大辞典』（吉川弘文館）

所在：中央図書館1F参考書 210.03||Ko

又は、webから：中央図書館データベース「国史大辞典Web」

- ・『第二版 日本国語大辞典』（小学館）

所在：中央図書館1F参考書 813.1||N

又は、webから：中央図書館データベース「日国オンライン」

- ・『角川日本地名大辞典』（角川書店）

所在：中央図書館1F参考書 291||Ka

- ・『日本歴史地名大系』（平凡社）

所在：中央図書館1F参考書 291||N

6.各章の参考文献

各章に関係する文献・史料を読み、理解を深めよう。

二章 「江戸時代の縁切寺」

石井良助「縁切寺 –東慶寺の場合」(同氏著『日本婚姻法史』)
所在：中央図書館3F 324.62||I

三章 若狭駆込寺 万徳寺の寺法

小浜市史編纂委員会編『小浜市史』社寺文書編
所在：中央図書4F地方史文献コーナー 214.4||O
田中久夫「戦国時代に於ける科人及び下人の社寺への走入」(『歴史地理』76巻2号)
所在：中央図書館B1雑誌

四章 周防の「無縁所」

脇田晴子『日本中世都市論』東京大学出版会、1981年。第五章2

五章 京の「無縁所」

勝俣鎮夫「国質・郷質についての考察」(同氏著『戦国法成立史論』)
所在：中央図書館3F 322.14||Ka

六章 無縁所と氏寺

『中世政治社会思想 上』254頁佐藤進一解説
所在：中央図書館3F 121.08||N||21
『静岡県史料』第二～五輯
所在：中央図書4F地方史文献コーナー 215.4||Si (いずれも)

七章 公界所と公界者

網野善彦「中世における鵜飼の存在形態 –桂女と鵜飼」(『網野善彦著作集』第七巻)
所在：中央図書館3F 210.08||A||7

八章 自治都市

西山克『道者と地下人』吉川弘文館
所在：中央図書館3F 215.6||N

九章 一揆と惣

大山喬平「中世社会のイエと百姓」（佐々木潤之介編『家族と国家』）

所在：中央図書館3F 361.63||Sa||3

十章 十楽の津と楽市楽座

勝俣鎮夫「楽市場と楽市令」（『論集中世の窓』）

所在：中央図書館3F 210.4||R

網野善彦「中世の桑名について」（『網野善彦著作集』13、中世都市論）

（『日本中世都市の世界』ちくま学芸文庫）

十一章 無縁・公界・楽

佐藤茂「<公界>といふ語」（『福井大学学芸学部紀要』第1部人文科学、11号、1962年）

所在：中央図書館 B1F

十二章 山林

勝俣鎮夫『一揆』（岩波新書、岩波書店）

所在：中央図書館3F 新書コーナー 210.1 || ka

十三章 市と宿

網野善彦『網野善彦著作集第11巻 芸能・身分・女性』

所在：中央図書館3F 210.08||A||11

十四章 墓所と禅律僧・時衆

細川涼一、松尾剛次「中世非人に関する一考察 -西大寺流による非人支配」（『史学雑誌』第89編第2号）

所在：中央図書館B1雑誌

十五章 関渡津泊、橋と勧進上人

松尾剛次『勧進と破戒の中世史』吉川弘文館、1995年

十六章 倉庫、金融と聖

網野善彦『網野善彦著作集第2巻 中世東寺と東寺領荘園』

所在：中央図書館3F 210.08||A||2

十七章 遍歴する「職人」

網野善彦「日本中世の百姓と職能民」（『網野善彦著作集第8巻 中世の民衆像』）

所在：中央図書館3F 210.08||A||8

十八章 女性の無縁性

網野善彦『網野善彦著作集第11巻 芸能・身分・女性』

所在：中央図書館3F 210.08||A||11

十九章 寺社と「不入」

笠松宏至「仏物・僧物・人物」（同氏著『法と言葉の中世史』）

所在：中央図書館3F 322.14||Ka

二十章 「アジール」としての家

勝俣鎮夫「中世武家密懐法の展開」（同氏著『戦国法成立史論』）

所在：中央図書館3F 322.14||Ka

大山喬平「中世社会のイエと百姓」（佐々木潤之介編『家族と国家』）

所在：中央図書館3F 361.63||Sa||3

石井進「中世社会論」（『岩波講座 日本歴史』第八巻（1976））

所在：中央図書館3F 210.1||I||8

戸田芳実「中世の封建領主制」（『岩波講座 日本歴史』第六巻（1963））

所在：中央図書館4F 210.108||I||6

二十一章 「自由」な平民

大山喬平「中世社会の農民」（同氏著『日本中世農村史の研究』）

所在：中央図書館3F 210.4||O

網野善彦『日本中世の民衆像 - 平民と職人』

所在：中央図書館3F文庫 210.4||A

7. セミナーの目的

著者は先に述べた切り口から中世社会の「自由」や「平和」が政治的権力によって保証されているものだけではないことを証明しようとした。

歴史を支配権力からの視点でのみとらえるのではなく、民衆の視点から捉えること、それも政治権力への抵抗と服従というようなものではなく、

広く人類社会史のなかでとらえようとする著者の挑戦は独特であり、それ故に歴史学界から多くの批判がなされた。

しかし、その挑戦を今日再吟味することによって、ともすれば歴史の表層のみを追いかける我々現代人は、歴史の基層、深層を流れるものに気づかされるであろう。

セミナーでは、この著書を全員で読み進める。各章で扱われているテーマについて、担当報告者が内容についてなるべく細部まで分からない点を調べ、さらに、当時の歴史学界の反応やそれに対する著者の反論についても著者の付した「補注」について報告し、全員で議論したい。

報告者は各章に登場する歴史用語について、『日本国語大辞典』、『国史大事典』『日本歴史地名体系』等の事典類を使って調べることから始め、内容を理解した上で、補注に記された他の研究者の批判点、それに対する著者の反批判を読み、何が問題となっているかを考える。歴史学が史料に基づいて立論されていること、史料の読み方には読む側の知識だけでなく、歴史観も反映されることなどがみえてくるはずである。